

# 茨城大学学報

第312号

平成25年12月～平成26年1月



バイオ燃料の原料となるスウィートソルガムを紹介する  
新田洋司 教授（バイオ燃料産業化シンポジウム）

## INDEX

- ◆ 学長年頭挨拶
- ◆ 「町内一斉美化清掃」に参加
- ◆ 防火・防災講演会開催及び防災訓練を実施
- ◆ 平成25年度国立大学法人Hグループ財務系職員のための実務者協議会の開催
- ◆ 茨城大学発バイオ燃料産業化シンポジウムを開催
- ◆ 学生懇談会を開催
- ◆ アメリカ大使館のジェイソン・マーティン副領事が来学
- ◆ 「第4回 高校生の科学研究発表会@茨城大学」を開催
- ◆ 文部科学大臣優秀教職員表彰を受賞（教育学部附属中学校 萩谷正教 主幹教諭）
- ◆ 第3回理学部FD講演会を開催

茨城大学総務部総務課広報係

TEL 029-228-8008

FAX 029-228-8019

## ◆ 学長年頭挨拶

平成26年1月6日  
学長 池田幸雄

新年、明けましておめでとうございます。今年もよろしくお願いいたします。

1年前には、政権が代わり、大学を巡る状況は大きく変化しました。民主党政権の時は、日本の18才人口が減少しているため、大学や学部を減らすとの方針でしたが、自民政権では、大学進学率をOECD並に上昇させるため、大学は増加・充実させるとの方針に転換しました。一方、大学での人材育成や大学ガバナンスについて、政府や産業界から大学に対して強い要請があり、大学改革の必要性が叫ばれたこの1年でした。このような状態で新年を迎えることになりましたが、本学としても、政府や産業界からの要請に応えるため、積極的に努力する必要があります。



本学の大学改革の内容には、以下の3本の柱があります。

- ① 大学教育改革：従来本学で私が主張していた21世紀型教育（創造的・総合的・弾力的人材の育成）は、産業界からの人材育成要請（新イノベーション人材・教養豊かなグローバル人材・社会の分厚い中間層の育成）と同じであり、本学はこれらの人材育成を積極的に推進する。
- ② 大学組織改革：平成22年に、20余りのセンターを教育振興局と学術振興局に集約したが、今後更にセンターの機能強化を図る。また、学部組織改革は既に「3学群制」を昨年5月に評議会決定しており、現在その詳細を検討中。
- ③ 大学ガバナンス改革：教授会の在り方（学長の諮問機関か審議機関か）が最も重要な論点であったが、中教審の「中間まとめ」では審議機関として存続になった。しかし、審議事項は主な4項目に限定された。

また、以上の3本柱の改革に加えて、本学には以下の3つの重点課題があります。

- イ) 地域振興・社会貢献：昨年秋に地域貢献度大学ランキング（日経グローバル）で全国第3位になった。今後、本学は第1位を目指す。
- ロ) 国際交流・留学生の拡大：昨年秋に「世界展開力強化事業」に採択された事をきっかけとして、更に国際交流を推進する。
- ハ) 大学の財政問題：平成24年度末に20弱の国立大学で赤字決算になった。平成25年度末でも同様な傾向の可能性があり、今後、本学も緊縮財政を心掛ける必要がある。

以上、これらの諸課題に向けて、本学は一層の努力をする必要があります。



さて、国立大学は平成16年度に法人化を成し遂げましたが、当時は国家公務員数の減少が重要で、大学改革そのものは付随的でした。特に法人化によって適用外になった「教育公務員特例法」の影響が法人化後も各大学に強く残っていました。しかし、現在では、法人化後10年を経過しており、本来の「国立大学法人化」を完成させるべきであるとの意見が大変強まっております。国立大学は国立大学法人法に則り、積極的に「真の法人化」を実行する事が不可欠です。本年は、本学の「法人化」を完全に成し遂げる年になるでしょう。皆様のご理解が是非とも必要です。「本学の大学改革3本柱」と「本学の3つの重点課題」と「本来の法人化」が円滑に成就する事を期待しまして、私の年頭の挨拶といたします。皆さんの全面的なご協力をよろしくお願いいたします。

以上

## ◆ 「町内一斉美化清掃」に参加

毎年、本学水戸キャンパス近隣の地域自治体において、町内の一斉美化清掃が行われています。今年は平成 25 年 12 月 1 日（日）に開催され、本学でも有志を募って参加しました。

当日は、早朝、氷点下という気候にもかかわらず、呼びかけに賛同したバスケットボール部員ら学生及び教職員、総勢 40 名あまりが参集し、キャンパス外周の落ち葉などの清掃を行いました。快晴のもと、学生と教職員が一致協力して作業をすることができ、清々しい一日のスタートとなりました。

地域に支えられ、地域から頼りにされる大学を目指す茨城大学は、今後も地域に根ざし、地元との草の根からの連携を図っていきたいと考えています。



町内一斉美化清掃の様子①



町内一斉美化清掃の様子②

## ◆ 防火・防災講演会開催及び防災訓練を実施

平成 25 年 12 月 3 日（火）に、水戸キャンパスの自衛消防隊を対象とした防火・防災講演会を開催しました。

この講演会は、翌週に実施される防災訓練に合わせて企画されたもので、水戸市消防本部火災予防課の菅谷氏より、自衛消防隊の任務と責任について講演があり、参加者はこれまでの見識を新たにするとともに、その業務の重要性について改めて再認識しました。

また、平成 25 年 12 月 11 日（水）には、火災予防の一環として防火・防災意識の高揚を目的とした防災訓練を実施しました。水戸市消防本部の協力の下、地震による火災発生を想定しての総合訓練、屋内消火栓操作訓練、消火器操作実地訓練及び防火思想普及のためのビデオ上映が行われ、年末の多忙な時期での開催でしたが、約 300 名の教職員・学生が参加し、熱心に防火・防災について学びました。

冬場は空気が乾燥しており、火災が発生しやすくなっています。火気の取扱には十分ご注意ください。



講演する水戸市消防本部火災予防課の菅谷氏（防火・防災講演会）



防災訓練の様子

## ◆ 平成25年度国立大学法人Hグループ 財務系職員のための実務者協議会の開催

平成25年度国立大学法人Hグループ財務系職員のための実務者協議会が平成25年12月5日（木）、6日（金）の2日間にわたり、本学を当番校として開催されました。

今年度は、「目標を達成するための行動力を含めた動机的かつ実践的な力」に気づく事を目的として開催され、国立大学法人Hグループの岩手大学、宇都宮大学、埼玉大学、横浜国立大学、静岡大学、和歌山大学、茨城大学より財務系職員20名が参加しました。

当日は、グループワークや報告発表を通じて、目的を認識することができ、互いの情報を共有し、交流を深めることができた有意義な協議会となりました。



研修参加者による記念写真



報告発表の様子①



報告発表の様子②



グループワークの様子

## ◆ 茨城大学発バイオ燃料産業化シンポジウムを開催

本学では、平成 25 年 12 月 10 日（火）に水戸市内の常陽藝文センターで、茨城県の後援もいただきながら JA 茨城県中央会と共催して、茨城大学発バイオ燃料産業化シンポジウムを開催しました。

シンポジウムには、農林水産省、茨城県及び JA 茨城県中央会から講師・パネリストを迎え、本学の関係者や学生をはじめ、学内外から約 150 名が参加しました。

冒頭、池田幸雄学長から開会の挨拶があり、本シンポジウムの趣旨説明が行われました。

続いて、本学の新田洋司農学部教授による講演「スイート・ソルガムの栽培とエタノールの生産」、茨城県の増子千勝企画部理事兼科学技術振興監による講演「茨城県における再生可能エネルギーの取組」、農林水産省の井上宏之農林水産会議事務局研究開発官（環境）室研究専門官による講演「農林水産省におけるバイオマス利用の研究開発について」が行われました。



新田洋司農学部教授の講演の様子

その後、講師 3 名の他に、茨城県の宮本清一郎農林水産部次長、JA 茨城県中央会の吉井孝一県営農業支援センター副センター長をパネリストに迎え、三輪五十二特命教授がモデレータとなってパネル・ディスカッションが行われました。

パネル・ディスカッションでは、「耕作放棄地」等で栽培するスイート・ソルガムを原料とした早期のバイオ燃料産業化のためどのような課題があるか、いかにして地域活性化等の付加価値を見だし、関係機関との連携・取り組みを進めるべきか活発な意見交換が行われ、今後の検討課題が明らかになりました。

最後に、本学の太田寛行農学部長から、シンポジウムで明らかとなった課題に対して関係機関と連携し、現場を考えたアクションに繋げていきたい、との閉会の挨拶で幕を閉じました。



パネル・ディスカッションの様子

## ◆ 学生懇談会を開催

大学教育センター（佐藤和夫センター長）では、平成 25 年 12 月 18 日（水）に学生懇談会を開催しました。これは、学生から率直な意見を徴し、学習環境の改善及び更なる充実を図るため、学部・大学院ともに初年次生を中心に学習支援と生活支援、学資支援に関する意見交換及び情報交換を目的としたものです。学生懇談会は平成 24 年度から開催しており、昨年度は年 1 回の開催だったが、要望が高いため、今年度は前学期に引き続き後学期も開催することとなりました。前回の学生懇談会では文系・理系にグループを分けましたが、「他学部学生の意見を聞けてよかった」との参加学生の感想を踏まえ、文系・理系の垣根を越えた意見交換を活発化させるため、今回は 5 学部、総勢 20 名の学生が一堂に会しての開催となりました。懇談会の実施にあたり、事前に 450 人を越える学生に対してアンケートを実施し話題提供を行うと共に、開催中はクリッカーを使って参加学生の意向をリアルタイムに集計することにより、活発な懇談会となりました。



懇談会の様子

「ラウンジはあるが、演習授業の発表打ち合わせ等、課題を進めるのには利用しづらい」「別のキャンパスで学んでいる学生は、学生担任との連絡が取りにくい」「保健管理センター等は病院のようなイメージがあり入りにくい」といった意見が、学生から積極的に発言されました。また、今年度から実施された GPA 制度について、より詳しい説明を大学に求める者もいました。



情報交換会で説明をする松土真由美 学術情報利用支援係長

情報交換会では、各担当の職員が留学・学資支援・就職支援・新図書館の整備といった大学の取り組みについてそれぞれ説明を行い、参加学生は熱心に耳を傾けていました。

最後に大学教育センターの勝本真副センター長から、「様々な意見を活発に出していただいた。皆さんの要望を大学の改善に活かしていきたい」との挨拶があり、盛況のうちに閉会となりました。



## ◆ アメリカ大使館のジェイソン・マーティン副領事が来学

平成 26 年 1 月 8 日（金）、アメリカ領事館のジェイソン・マーティン副領事が来学し、池田幸雄学長を表敬訪問したあと、本学で学ぶアメリカ人留学生 3 名と懇談しました。

その後、アメリカ留学セミナー『アメリカで学ぼう！』において、約 1 時間にわたり、アメリカの地域的特色、アメリカ留学の魅力、奨学金情報、ビザ取得情報など、アメリカ留学全般に関して、英語による説明がありました。セミナーには、アメリカ留学に興味がある学生、国際交流担当の教職員、アメリカへの交換留学が決まっている学生等、多数の参加者があり、熱心にメモを取る姿が見られました。

マーティン副領事はご自身の経験談も交えながら、「学生時代の留学体験はその後の生き方を決めるようなかけがえのない経験となるので、ぜひアメリカに来て学んでほしい」と学生を激励されました。



ジェイソン・マーティン副領事(左)、池田幸雄学長(右)



留学セミナー『アメリカで学ぼう！』の様子

## ◆ 「第4回 高校生の科学研究発表会@茨城大学」を開催

理学部では、2014年1月11日（土）に水戸キャンパス（人文学部講義棟）を会場に、「第4回 高校生の科学研究発表会@茨城大学」を開催しました。

計74件と過去最高となった演題（口頭発表 40件、ポスター発表 34件）について、300名を超える参加者が大学教員とともに活発な議論を展開しました。今年は新たに、宮城県からの参加や中等教育学校の1年生（中学1年生に相当）の講演があり、例年にも増して楽しく刺激的な研究会となりました。茨城県教育庁・野内指導主事からは、「今後の発展が楽しみな研究や全国的な基準からしても大変高いレベルの研究が目白押しである。」とご講評をいただきました。また、どの演題も高校生の皆さんの努力と、指導されている先生方のご尽力が感じられる発表でありました。

審査の結果、閉会式で下記の演題を優秀発表賞として表彰し、閉会となりました。



熱気あふれるポスター発表の様子



B会場での発表風景

### 優秀発表賞（口頭部門）

「ナミテントウは強い虫？」 村田篤志（常総学院高等学校）

「クマムシの tun 状態における環境ストレス耐性」 海老沢聡美、若林果菜子（水戸二高）

「ab initio 法を用いたシクロアルカンの融点のサイズ依存性に関する研究」 今村優吾（水戸一高）

「授業中の居眠りに関する研究」 大橋慶子、高野晃太郎、荒井美幸（茨城キリスト教学園高等学校）

「六角高層ビルのトリオタワー構造」 鈴木陽太（日立一高）

「4 節リンク機構における入力・出力点の関係の数式化」 吉田真也（茨城県立並木中等教育学校）

### 優秀発表賞（ポスター部門）

「エチレンがカイワレダイコンの葉の形に与える影響」 久保裕亮（茨城県立並木中等教育学校）

「水口ケットの飛行解析」 吉田有毅（日立一高）

◆ 文部科学大臣優秀教職員表彰を受賞  
(教育学部附属中学校 萩谷正教 主幹教諭)

教育学部附属中学校の萩谷正教 主幹教諭が「平成 25 年度文部科学大臣優秀教職員」の表彰を受け、平成 26 年 1 月 27 日（月）にメルパルクホール（東京都港区）で行われた表彰式に出席しました。平成 25 年度の被表彰者数は、875 名（国立 21 名、公立 823 名、私立 31 名）でした。

この表彰は、全国の国公私立学校の現職の教職員で、学校教育における教育実践等に顕著な成果を挙げた者として、文部科学大臣が審査を行い決定されたものです。

萩谷正教 主幹教諭は、文部科学省の研究協力員や全国中学校技術・家庭科研究会の理事、また茨城県内においても、茨城県教育研究会家庭、技術・家庭科教育研究部の事務局として、研究推進委員長や事務局長を歴任するなど、技術・家庭科教育の一層の発展に寄与したことが、今回評価されました。



表彰状を持つ萩谷正教 主幹教諭（教育学部附属中学校）

### ◆ 第3回理学部 FD 講演会を開催

理学部では、平成26年1月29日（水）に理学部 K棟インタビュースタジオにおいて、水戸市近郊に本社を構える木内酒造合資会社取締役の木内敏之氏と、平沼産業株式会社代表取締役の平沼憲一氏を講師にお招きして、「地元企業が期待する人材育成機能」と題して、第3回 FD 講演会を開催しました。この講演会は理学部の FD 活動の一環として開催されたものであり、講演の様子は阿見キャンパスにもリアルタイムで配信され、理学部のみならず、全学の教職員、学生を含めて60名を超える多くの参加者が集まりました。

木内氏と平沼氏は、それぞれの会社の沿革、事業内容等についてわかりやすく説明していただいた後に、グローバル人材、イノベーション人材の育成という観点から、茨城大学の教育にどのようなことを期待するか、学生にどのような資質・能力を求めるかについてお話いただき、聴講者との間で意見交換を行いました。今後、地元企業、地域社会との連携を一層拡充していく上で、また、参加した学生にとっては今後の就職活動を行うに当たって、とても有意義な講演会となりました。



講演を行う木内酒造合資会社の木内敏之氏



講演を行う平沼産業株式会社の平沼憲一氏